

「コミュニケーションレポート2013」本文の⁹と対応しています。

ア

◎アンカーボルト 14ページ
構造部材(橋梁、トンネルなど)と道路附属物(ジェットファン、標識板、情報板)などを固定するために、コンクリートに埋め込んで使用するボルトのことをいいます。

◎インフォメーション 2・39ページ
高速道路を安全・安心、快適にご利用いただくための総合案内窓口。NEXCO西日本では69カ所のサービスエリアに配置され、お客さまからのお問い合わせ対応や地域情報の提供などを行っています。車いす、ベビーカー、老眼鏡など各種器具の無料貸し出しも実施しています。

◎ウェブサービス 14・15・34ページ
ウェブ(Web)とは、インターネット上で、文字や画像、動画などに簡単にアクセスし、扱えるようにする仕組み・サービスのこと。企業の商取引向けから一般向けまで、さまざまなサービスがあります。

◎ウルトラファインバブル水 13ページ
数100ナノメートル(1ナノメートルは1mmの100万分の1)以下の微細の気泡を含んだ水のこと。

※一般社団法人微細気泡産業会による名称の統一事項として、ナノバブルからウルトラファインバブルに呼称変更されました。

カ

◎環境アクションプラン 26・58ページ
NEXCO西日本が掲げている環境基本計画(中期計画)のもと、継続的な改善を行うための年次行動計画。NEXCO西日本では、環境方針の3つの重点テーマ「低炭素社会(◎)の実現」「循環型社会(◎)の形成」「自然と共生する社会の推進」を実現するために、このプランの達成に注力しています。

◎企画割引制度 13ページ
高速道路における通行料金の割引制度のうち、高速道路の貸付料の支払いに支障のない範囲において、NEXCO西日本が独自に割引対象車両、割引率、期間、区間等を定めて実施する割引のことをいいます。

◎切土 8・64ページ
地山を切り取って低くし、平坦な地表(道路面)を作るための工事のこと。

◎グリーン調達 58・66ページ
原材料や資材、製品などを調達する際、環境負荷の少ない物品やそのような配慮をしているメーカーの製品を優先的に購入すること。NEXCO西日本では、2001年に制定されたグリーン購入法に基づいて、環境省が定める「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に沿って、グリーン調達を推進しています。

◎桁端(けたたん)防水 6ページ
橋梁の桁端部が路面からの雨水・排水等によって劣化することを防止するため、伸縮装置(◎)部から水漏れがないようにしたり、桁端部に防水剤を塗ったり、浸透させたりすること。

◎広帯域超音波法 27ページ
コンクリート部材内に広帯域の周波数の超音波(2.5kHz~1MHz)を放射して、PC鋼材(◎)の保護管から反射した波の特性(共振・後方散乱等)を分析・抽出して、保護管内のグラウト(本文27ページ)の充填状況を推定する方法のこと。

◎コーポレート・ガバナンス 21・25ページ
「企業統治」の意味。長期的な企業価値の最大化に向けて、企業経営の健全性・効率性・透明性を確保する仕組みや制度のこと。

◎コンプライアンス 21ページほか
「法令遵守」の意味とされることが一般的ですが、近年では、法令のほかに社内規則や社会的規範なども含めた、広い範囲のルールなどを遵守することが求められるようになってきました。NEXCO西日本では、これを「法令に違反する行動や社会から非難される行動をしないこと」としています。

◎国連グローバル・コンパクトの10原則 19ページ

1999年の世界経済フォーラムで、国連のアナン事務総長(当時)が提唱した、企業の自主行動原則。グローバル・コンパクトの参加企業には、「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野における10原則を守るよう要請しています。

サ

◎災害図上訓練 44ページ
災害訓練のひとつで、地図等を使って災害時の対策を検討する参加型の訓練のこと。この訓練では、参加者全員が大きな1枚の地図等を囲み、災害発生時に想定される事象への対応や復旧方法などを書き加えながら議論を進めていきます。関係機関が集まって訓練を行うことで、起こりうる災害をより具体的に捉えることができ、訓練を重ねることで、関係機関との連携強化や実践的な災害対応力の向上にもつながります。

◎持続可能な社会 1・57ページ
1987年に国連の「環境と開発に関する世界委員会」で公表された「将来の世代が彼らのニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たす」という「持続可能な開発」の考えに基づき、開発と地球環境の保護を共存させていける社会のこと。

◎磁粉探傷(じふんたんしょう)試験 8ページ
非破壊検査(◎)の一種。鉄鋼材料などの強磁性体(磁石に吸引される物資)は、その表面に損傷があると磁力が漏れるという事象を利用し、磁粉(磁性を帯びた細かな鉄粉など)を使い損傷箇所を検出する方法です。

◎重量構造物 8・75ページ
本レポートにおいては、トンネルから吊り下げて設置されているジェットファンや情報板、高速道路上に設置されている案内標識板など、落下すると大きな事故につながる道路附属物のこと。

◎循環型社会 64ページ
「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会から脱却し、3R(◎)によって、廃棄物を減らし、資源を繰り返し(循環)利用する社会。2000年に制定された「循環型社会形成推進基本法」では、「天然資源の消費量を減らして、環境負荷をできるだけ小さくした社会」と定義されています。

◎床版(しょうばん)防水工 6ページ
橋梁の床版は、コンクリートの劣化によるクラック(ひび割れ)から雨水等が侵入すると劣化が加速的に進行します。このため、床版への雨水等の侵入を防止するため、床版上とアスファルト舗装の間に防水シート等を敷設する工法のこと。

◎**情報セキュリティ** 20・22・25ページ
国際規格「ISO/IEC27002」では、「情報セキュリティ」を「情報の機密性、完全性および可用性を維持すること」と定義しています。また、内閣官房情報セキュリティセンターによると、これら3つの性質のうち、機密性は「あらかじめ決められたものだけが、その情報を使えること」、完全性は「情報が壊されたり、勝手に変更されたり、消されたりしないこと」、可用性は「情報を使うことを許された者が、使いたい時にその情報を使えること」をそれぞれ指します。

◎**伸縮装置** 6ページ
橋梁において、橋梁と橋梁または橋梁と土工部の継ぎ目に設置し、構造物間の変位(移動量)を吸収するための装置のこと。

◎**新直轄方式** 2・41ページ
高速自動車国道の整備を、国と地方自治体の負担により整備する手法のこと。一般的に、採算性に乏しい路線・区間など、高速道路会社による整備・管理が難しい路線・区間が多く指定されています。

◎**ステークホルダー** 1ページほか
企業活動をするうえで影響を与えるすべての利害関係者のこと。具体的には、顧客(一般消費者)・株主・取引先・社員・地域社会などを指し、企業が社会的責任(◎CSR)を果たすためには、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションによって信頼関係を強化するとともに、すべてのステークホルダーに対する責任を明らかにして、事業活動を行っていく必要があります。

◎**すべり摩擦係数** 31ページ
物質と物質との間に働く抵抗力(摩擦力)を荷重で割ったもので、すべりやすさを表す指標のこと。路面とタイヤとのすべり摩擦係数は、タイヤや路面の条件等によって変化します。

◎**スマートインターチェンジ** 12・42ページ
高速道路の本線やサービスエリア、バスストップなどから乗り降りができるように設置され、利用をETC(◎)搭載車両に限定したインターチェンジ。料金の支払い方法をETCに限定することで簡易な料金所の設置で済み、従来のインターチェンジに比べて低コストで導入することができます。

◎**設計協議** 11・50ページ
高速道路が通過する自治体や関連する他の公

共事業者や地元住民の皆さまと、図面に基づき周辺の道路や水路の切り替えなどについて協議を行い、道路構造について決定します。NEXCO西日本など高速道路会社は、この結果をもとに道路設計を実施します。

◎**生物多様性** 19・26・67ページ
多様な生物が地球全体に存在しており、それらの生命が豊かな個性を持ってつながりあっていること。生物多様性条約では、「生態系(さまざまな生物が生息する場所)の多様性」「種の多様性」「遺伝的多様性」という3つのレベルで多様性をとらえ、それらの保全を求めています。

◎**打音検査** 6ページ
コンクリート構造物(橋桁や橋脚、トンネルの覆工コンクリート等)の表面をハンマーで叩き、発生した音によってコンクリートの状態を簡易に調べる方法のこと。

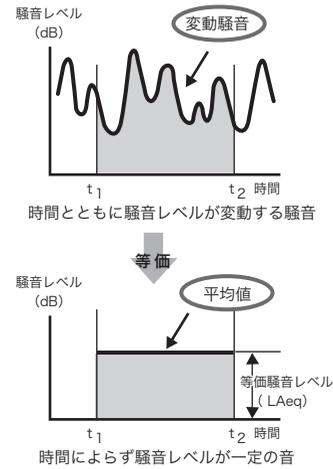
◎**地球温暖化** 29・63・70ページ
人間の活動による化石燃料の使用や森林の減少などによって、温室効果ガス(二酸化炭素やメタンなど)の濃度が高まり、地球表面の大気温度が上昇すること。

◎**低炭素社会** 61ページほか
脱化石燃料化を進め、地球温暖化(◎)の原因となる二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を最小に抑えるための配慮を徹底することを当然とする社会のこと。究極的には、温室効果ガスの排出を自然が吸収できるレベル(カーボン・ニュートラル)な社会を目指すもの。

◎**テレコミュニケーター** 35ページ
高速道路に関するお客さまからの問い合わせに対して、電話対応をする専門要員のこと。NEXCO西日本では、お客さまセンターに配置され、24時間体制で交通情報や料金に関する問い合わせその他の案内を行っています。

◎**デシベル(dB)** 68ページ
騒音のレベルを表す単位で、環境省が環境基本法に基づいて定めている騒音に関する環境基準もデシベルで示されています。50デシベルは静かな事務所、60デシベルは普通の会話や時速40kmで走行する自動車の車内に相当します。

◎**等価騒音レベル(LAeq)** 68ページ
騒音レベルが時間とともに不規則かつ大きく変動している場合に、同じ測定時間で一定の騒音レベル(定常音)で代表させるとどのような数値になるかを考え、時間内に変動する騒音レベルのエネルギーに着目してその時間平均値を算出することで、変動騒音と等価になるようにした場合の定常音の騒音レベルのこと。



◎**道路ネットワークの多重化** 4・11ページ
大規模災害によって道路が寸断された場合に、社会・経済への影響を最小限にとどめるために、代替道路を確保、整備すること。

◎**トータルマネジメント** 6ページ
物事の始まりから終わりまでの一連の作業、例えば、道路構造物の調査点検から補修工事の実施までを総合的に管理すること。

◎**独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構** 1・74ページ
略称・高速道路機構。日本国内の高速道路(高速自動車国道・自動車専用道路)の道路資産を保有・貸付けし、債務の返済を行う独立行政法人として、2005年に設立されました。日本道路公団等民営化関係法施行法により、道路関係公団の業務を各道路会社とともに承継しています。

◎**日本道路公団** 74ページほか
2005年に分割民営化されるまで、有料道路(高速自動車国道、一般有料道路)の建設および管理を行っていた特殊法人。1956年に日本道路公団法により設立されました。業務のうち、施設の管理運営と建設はNEXCO3会社に、保有施設および債務は高速道路機構(◎)に、それぞれ分割承継されました。

◎のり面 63ページほか
高速道路を建設する際、切土(◎)や盛土によって作られる人工的な斜面のこと。

◎ネットワークバリュー 18・20ページ
高速道路がネットワークでつながって、一つのシステムとして機能することにより生み出される価値。

◎のり面グラウンドアンカー 8ページ
地すべりの末端部や道路のり面などで不安定な土塊を固定するため、あるいは、構造物が単独では安定せず転倒のおそれがある場合に、PC鋼材(◎)を岩盤に固定し、PC鋼材の引っ張る力で地山の変形を抑止する工法のこと。

ハ

◎ハイウェイラジオ 33ページ
高速道路上で聞くことができる、道路交通情報だけを流すラジオ放送のこと。大都市圏や交通量の多い路線では密に放送区間が設けられており、それ以外の地域では主に、ジャンクションや主要なインターチェンジ手前の広域情報板と合わせて設置されています。放送内容は基本的に5分ごとに更新されます。

◎バイオマスエネルギー 13・64ページ
木や生ゴミ、動物の糞尿などを燃焼させて得られる電力や熱を利用する、生物起源のエネルギーのこと。バイオは「生物」、マスは「量」という意味。燃焼過程で発生する二酸化炭素は、もともと光合成などによって大気中から動植物の体内に固定されたもので、全体で見ると二酸化炭素の量は増えないため、バイオマスの利用は地球温暖化(◎)対策の有効な手段として期待されています。

◎バタフライウェブ 11ページ
コンクリート箱桁橋のウェブ(側面部)に蝶形形状の薄型パネルを使用した橋梁のこと。

◎バリアフリー 53ページ
もともとの意味は「バリア(障壁)がない(フリー)」こと。最近では、建物内外の段差など物理的なバリアだけでなく、高齢者や障がい者が住みやすい社会をつくるための、心理的、制度的、社会的なバリアの除去も含むようになっていきます。

◎筆簾(ひちりき) 12・16ページ
6世紀初め頃に中国から伝来した雅楽の管楽器。長さ約18cmの竹管の表に7つ、裏に2つの孔(あな)明け、その間に樺の皮を巻き、上端にマウスピースの役割を果たす葦(ヨシ)製の舌(蘆舌:ろぜつ)を挿入した縦笛です。

◎非破壊検査 8・45ページ
道路構造物や設備のひび割れ等の傷を、破壊することなく検出する検査技術のこと。構造物や設備に放射線や超音波などを入射して、内部損傷を検出したり、電流や磁束(磁力線の束)を流して表面の傷を検出したりする方法があります。

◎ヒヤリハット 14・31ページ
事故には至らなかったものの、あわや事故になりかねない危険な事例のこと。文字通り、「ヒヤリとする」「ハットする」が、その語源です。

◎フェールセーフ 3・8・14ページ
故障や操作ミス、設計上の不具合、劣化による障害などが発生することをあらかじめ想定し、起きた際の被害を最小限にとどめるような工夫をしておくという思想のこと。例として、標識のボルトが外れても標識板が落下しないようワイヤーで固定しておくことなどが、挙げられます。

◎プレキャストPC床版 6・7ページ
橋梁床版の施工性、品質・耐久性の向上を目的に、工場で作成したプレストレスト・コンクリート(PC鋼材(◎))を用いて引っ張りに耐える力を強くしたコンクリート床版のこと。プレキャストとは、あらかじめ工場で作成した製品という意味です。

マ

◎マテリアルフロー 59ページ
企業の事業活動に伴って、一定期間に投入される物質(マテリアル)の総量と流れ(フロー)、外部への物質の総排出量を集計したもの。これらを集計し定量的に分析することによって、物質が製造プロセスでどう移動するかが追跡でき、その結果、資源の消費をどう抑えるかの検討・対策立案につなげることができます。

◎マルチカラー情報板 13ページ
従来の変変式道路情報板は3色(赤・緑・橙)での表示でしたが、近年は白色を含む7色表示可能な情報板の導入を進めており、これをマルチカラー情報板と呼んでいます。

◎マルチメディア放送 13ページ
アナログテレビ停波後の周波数帯を使って情報発信する新しい放送。NEXCO西日本では、交通・渋滞・規制などの道路交通情報や、自然災害や逆走などの緊急警告情報など、情報板だけでは伝えきれない情報発信への活用を検討しています。

◎緑のリサイクルプラント 64ページ
道路の維持管理において樹木の剪定や草刈りに伴って発生する植物系廃棄物を堆肥化して緑化資材に転用、再利用(リサイクル)材を製造する設備。NEXCO西日本の管内には、計8カ所のプラントがあります。

ヤ

◎ヨシ 12ページほか
水辺に自生するイネ科の多年草。地上での高さは約2mで、地中には扁平な長い根茎を走らせ大群落を形成します。「葦(アシ)」が「悪し」に通じるのを忌んで、「よし(ヨシ)」と言い換えたのが定着したと言われています。

ラ

◎ライフサイクルコスト 6ページほか
原材料調達から製造、使用、廃棄に至る、製品の一生(ライフサイクル)全体で発生する費用のこと。橋などの構造物の場合は、計画～設計～施工(工事)～維持管理～修繕・更新～解体・撤去までを「ライフサイクル」と定義し、建設から維持管理・撤去の全期間に要する費用としてとらえます。

◎リスクマネジメント 20・22・25ページ
企業経営を行ううえで、経営に重大な影響を及ぼしかねない危険(リスク)を把握・評価することでリスクの未然防止を図るとともに、リスクが顕在化した場合は最小限にとどめる管理手法のこと。

◎料金検索サービス 49ページ
NEXCO西日本ウェブサイトを提供している通行料金および目的地までの所要時間を検索できるサービス。NEXCO3会社、本四高速道路、首都高速道路、阪神高速道路と地方都市高速道路、ならびに一部の新直轄方式(◎)で整備された道路がサービス対象です。2012年

11月には、出発または到着日時を指定し、走行区間におけるETC割引料金を表示する機能を追加しました。

◎**ロールプレイング** 37・55ページ
役割演技法と呼ばれる、教育訓練法のこと。実際の仕事上の場面を設定し、そこでの役割を演じることで、実務上のポイントを習得するもので、接客やセールス技術など、対人コミュニケーション能力の向上を目指す研修で用いられます。

ワ

◎**ワークライフ・インテグレーション** 25・54ページ
会社における働き方(ワーク)と個人の生活(ライフ)を柔軟かつ高次元に統合(インテグレート)することで、生産性や成長の拡大を実現するとともに、生活の質を上げ、充足感と幸福感を得ることを目指すもの。ワークとライフを対立的にとらえ、その量的バランスを図るワークライフ・バランスの発想をさらに一歩進めた考え。

英数字

◎**3R** 64ページほか
限りある資源を有効に使い、循環型社会(◎)を形成するために、必要な3つの取り組み。Reduce(リデュース:廃棄物の削減)、Reuse(リユース:使えるものは繰り返し再使用)、Recycle(リサイクル:廃棄物の再資源化)のこと。

◎**CS推進オピニオンリーダー** 20・37ページ
高速道路を利用するお客さまの満足度向上を図るため、NEXCO西日本では外部有識者をCS推進オピニオンリーダーに委嘱し、定期的にご意見を伺う機会を設けています。外部有識者は、物流事業者、マスコミ、物販・レストラン運営者、学識関係者など多方面から選任されています。

◎**CSR** 1ページほか
Corporate Social Responsibility、すなわち、「企業の社会的責任」のこと。企業は、事業活動において、利益を追求するだけでなく、従業員、顧客、地域社会などすべてのステークホ

ルダー(◎)との関係を重視しながら、社会や環境に対して社会的責任を果たすべきだという考えは、年々、高まっています。

◎**DRIVE&LOVE** 69ページほか
2010年度より実施している交通安全啓発活動。交通事故原因のほとんどはドライバーの不注意によるものという現状を受け、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」をドライバーに訴えかけることで、運転への意識を変えていこうとしているのが特徴です。一般企業・メディア・著名人などにも広く参加を呼びかけながら、交通事故ゼロを目指しています。

◎**ETC** 34ページほか
電子料金収受システム(Electronic Toll Collection System)の略。無線通信を利用して車両と料金所のシステムが必要な情報を交換し、料金の収受を行うので、有料道路を利用する際に料金所で停止することなく通過できます。

◎**ETC時間帯割引** 48・49ページ
高速道路における通行料金の割引制度のうち、特定の時間を利用するETC車を対象に、割引対象車両、割引率、期間、区間等を定めて実施する割引のこと。

◎**Facebook(フェイスブック)** 13・49ページ
アメリカ発の世界最大のソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)。SNSとは、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のサービスを提供するウェブサイトで、Facebookは、数あるSNSの中でも、実名登録によってインターネット上で人々と交流するのが特徴。全世界で約5億人に利用されています。

◎**GRI** 19ページ
国連総会の下部機関である国連環境計画(UNEP)公認協力機関となっている非営利団体で、正式名称はGlobal Reporting Initiative。GRIが発行する「GRIガイドライン」は、持続可能な社会実現に向けて企業などの組織が発行する報告書についての国際的なガイドラインの発行元として知られ、日本でも多くの企業がCSR報告書の作成にあたって、GRIガイドラインを参考にしています。

◎**IR情報** 49・75ページ
IRは「Investor Relations」の略で、自社について理解を深めてもらうために、企業が投資

家・株主に向けて行う広報活動全般を指します。そのIR活動で、投資家・株主が適切な投資判断ができるように、企業が開示・提供する情報をIR情報といいます。

◎**ISO14001** 57ページ
1992年に開催された「地球サミット」をきっかけに、1996年に国際標準化機構(ISO)によって発行された環境マネジメントの国際規格。企業などの組織が方針・計画、実施、点検、是正・見直しというPDCAサイクルを回すことによって環境マネジメントのレベルを継続的に改善していくことを求めています。登録機関による外部審査を受けることで、認証登録を受けることができ、日本では財団法人日本適合性認定協会を中心とした審査登録制度が整備されています。

◎**ISO26000** 1・19・25ページ
2011年に国際標準化機構(ISO)によって発行された「組織の社会的責任」に関する国際規格。認証規格ではなく、ガイダンスという位置づけであることが特徴。「説明責任」「透明性」など組織が尊重すべき「7つの社会的責任の原則」を示したうえで、「7つの中核課題」として「組織統治」「人権」「労働慣行」など関連する課題や具体的なアクションプランを示しており、各組織が自主的に社会的責任を果たす際の手引書として活用できます。

◎**PC鋼材** 7・11・27ページ
引っ張る力に弱いコンクリートの弱点を克服するため、あらかじめ引っ張る力に強くなるよう、荷重がかかる方向とは逆の力(圧縮力=プレストレスト)を導入する際に、使用する高強度の鋼材のこと。PCとはプレストレスト・コンクリートの略。

◎**TAS(Think Action Speed)運動、TASミーティング** 13・51ページ
TAS運動とは、Thinking<発想>、Action<行動>、Speed<スピード>の頭文字から名付けられ、社員一人ひとりが時代の変化や新たなニーズに対して、日々の業務の中から問題意識と関心を持って、考え、行動する、NEXCO西日本独自の運動。社内の定例会議を「TASミーティング」と称し、誰もが自由に発言できる場として活用することで、チームで情報を共有できる、風通しのよい職場への改善に取り組んでいます。